

地域移行促進部会活動報告

(知的グループ)

第2回を10月24日に開催し、第1回に出された課題に沿って議論を深めた。

1 地域移行の流れと選択肢の課題

(1) 地域移行の流れはどのように変化しているか

- ・入居者のライフステージの変化、支援スタイルが変化してきている、具体的には入居者が支援系から介護系が必要な方への変化、機械浴導入の必要や、声出して近隣より通報され警察が来たり、職員が介護知識を求められるようになってきた。
- ・「重度でも一人暮らし」の考え方を含め生活様式が変わってきている。一人暮らしの可能性が広がっている。

(2) 地域移行先の選択肢の現状と課題は何か

- ・加齢よる変化にGHの環境がついていけない状況がある。
- ・加齢により、就労先に路線バスで行きにくくなってきている方の送迎が課題になってきている。
- ・入居者で頻繁に発作で倒れる方がおり、救急車を呼ぶことが続いた。夜間は世話人一人で対応せざるを得ず、世話人の心理的負担や本人の安全確保などに限界がある。
- ・入所施設に長くいると介護保険施設に入りにくい。GHの方が選択肢の幅がある。介護保険施設は、知的障害があると受け入れないところがある。GH入居者は緊急度が低いとされ、入りにくい。
- ・終の棲家について、古い方は「最後まで面倒を見る」との考えがあるが、医療的ケアの比重が高くなると支援が難しい。亡くなるギリギリで入院となる。入所施設が終の棲家とは言えない。
- ・GHにいたることだけが幸せではない。知的だから入所施設、一般の老人施設に入っているで、どちらが幸せか。いろんな人が入ってきて、それでいいか。

2 地域移行を進めるために共有することはなにか

(1) 期限型入所施設と長期滞在型入所施設がある中での入所者の動向と課題

- ・すだちの里への申し込みが、家族の高齢化が理由という家庭が多くなってきている。また、本人の重度化で家族だけで支えきれなくなっている。高卒すぐの申し込みは減ってきた。
- ・入所施設は、強度行動障害・自分で外出できない人・服を破る・触法の人など、入所でしか生活できない方のためには必要。都内では、永住型の入所施設は作れない。
- ・高齢化で施設が必要になる人は無くならないだろう。その方々はGHでの生活は難しいだろうが、施設入所が最終的と思っている方が多い。

(2) 地域移行先をどの範囲で考えるか

- ・すだちの里の地域移行を見ると、①軽度の方が回っている。②GHには重度の場合区分4でぎりぎり受け入れてもらえる傾向がある。
- ・入所前に重度行動障害がありGH利用に入れなかった方でも、入所後服薬調整などで送り出せた。
- ・入所後11年経った方の移行課題は、本人特性から、①環境変化に対応できるかで二の足を踏むこと、②失敗体験で終わるのではないかの危惧、③合ったGHがなかなかない。
- ・GHへ移ってよかったとの話がある一方、うまくいっていない、良さが見えてこない、もう一度チ

チャンスが欲しい、家族の協力の仕方が分からないとの声がある。

- ・本人は想像がつかない。昼間の場も住まいの場も選択の余地があまりない中で、見学に行って帰ってきた方など、行き場がなくて困っている状況がある。
- ・10年、20年入所施設に入っていると施設が住まいになっているから、地域に戻す気持ちがないという親が多い。

(3) 地域移行の本人意向の確認・コーディネーターはどうあるといいか

- ・本人からは、家がすぐそばなのにどうしてここに自分がいるか、納得しきれていない人がいる。
- ・行き場所がなく「その日突然に知らない入所施設」利用、をなくすように情報提供できるといい
- ・他県にいて杉並・すだちに入りたいという情報が施設に来ない。福祉事務所のケースワークの繋がりが無い。区報を見ての申込みにとどまっている。→コーディネーターが居れば、外との出入りが可能になるのでは。コーディネーターの部署・情報の行き来が大事。

○今後は出された意見を整理し、解決できるものについては方策の検討を行い、部会だけでは解決が難しい課題については本会にあげていくことを確認した。

(精神グループ)

第2回を11月15日に開催し、今後精神科病院からの退院を進める上での課題について議論した。

(1) 杉並区の地域移行に関するこれまでの取組を報告。また、現状を数的データ(入院患者数など)で示し、今後こういった視点や手法で退院促進を図っていくかについて検討。

- ① 近隣の精神科病院には、区独自事業の地域移行プレ相談事業が浸透しつつあり依頼が増えている状況がある。支援を通して、地域移行プレから地域移行支援、退院という流れが病院側も見えたと次の依頼につながる。顔の見える連携が有効なのではないか。
- ② 近隣病院へのアプローチはこれまでも行っているのに、手が付けられていない部分に取組む必要があるのではないか?・・・多摩や八王子、青梅などの市部
- ③ 上記市部の精神科病院に入っている都事業の事業所と連携する、地域移行プレ相談事業を知ってもらうことが必要ではないか?
- ④ 地域移行プレ相談事業を知ってもらうのに加え一般相談支援事業所での支援についても知ってもらう・・・双方の役割や流れみたいなものを示せるといいのではないか。
- ⑤ 一般相談支援事業所が増えないのも課題。今後一般相談支援事業所をいかに増やしていくか?
- ⑥ 精神のケースワーク経験が少ない事業所に、一般の指定を取ってもらう働きかけを行うにあたり、地域移行プレの経験が培われているすまいる菫に指導的な役割を担ってもらうこともできるのではないか?・・・一般相談支援事業所と地域移行プレ相談事業の役割の明確化も図れるのでは。
- ⑦ 特定相談支援事業所に地域移行业務を知ってもらうことが大事では。地域移行プレ相談事業のグループ活動に同行してもらう機会を作るとか、事例検討や取組報告会を実施するなどして一緒に勉強していくのもいいのではないか。

○今後市部の精神科病院へ、杉並のチームとして入っていくことについて具体的に検討する。

また、一般相談支援事業所を増やす取組を具体的に実施していくことを確認した。